

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

国語

科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（『論理国語』数研出版）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	【学びに向かう力、人間性等】
	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	1 弱いつながり ・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	・指導事項 筆者の主張を読み取り、現代社会の傾向を踏まえて筆者がそのように主張する理由を考察する。 ・教材 「弱いつながり」	○		○	【知識・技能】 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章の内容から読み取れる筆者の意図について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○	7
	2 逆説 ・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	・指導事項 筆者の考えに対する自分の意見を、根拠とともに文章にまとめる。 ・教材 「手の変幻」		○	○	【知識・技能】 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	3 具体と抽象 ・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点がわかる具体的事例を日常生活の中から考える。	・指導事項 論理的な文章を読んで、筆者の考えに合う具体例を考え発表する。 ・教材 「『具体』から『抽象』へ」	○		○	【知識・技能】 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。〔B(1)キ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	○	○	○	7
	4 言葉と創造 ・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・外国の言葉や表現を選び、それが表す概念とともに紹介する。	・指導事項 論理的な文章を読んで、筆者の考えに合う具体例を考え紹介する。 ・教材 「国境を越える言葉」		○	○	【知識・技能】 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。〔B(1)キ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	5 近代と現代の視点 ・環境問題について筆者の意見の論理をとらえる。 ・「未来世代への責任」という題で自分の考えを書く。	・指導事項 論理的な文章を読み、筆者の考えを踏まえて自分の意見を書く。 ・教材 「未来世代への責任」				【知識・技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から	○	○	○	○

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

地理歴史

科目 歴史総合

教科：地理歴史

科目：歴史総合

単位数：

単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

使用教科書：（第一学習社 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】世界と日本を広く相互的な視野からとらえて、近現代の歴史を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成にかかわる近現代の歴史を考察する。

【学びに向かう力、人間性等】歴史の大きな変化に着目し、問いを設け、資料を活用しながら歴史の学び方を習得する。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこ中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち②歴史の特質と資料 【知識及び技能】 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、私たちの生活や身近な地域と日本と世界の歴史との関連性について考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	1. 歴史と私たち 2. 歴史の特質と資料 ・教科書 配布資料 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象とそれらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解できている。 【判断・表現】 日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	5
	第2部近現代の世界と日本 第1章近代化と私たち 【知識及び技能】 18世紀のアジアや日本における生産と流通、産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア諸国と欧米諸国との関係について多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 工業化の進展と国民国家の建設 ・教科書 配布資料 ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 18世紀のアジアや日本における生産と流通、産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第2部近現代の世界と日本 第1章近代化と私たち 【知識及び技能】 立憲体制と国民国家の形成列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	第3節 結びつく世界と日本の開国 第4節 帝国主義とアジア諸国の変容 ・教材 ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 立憲体制と国民国家の形成列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	第2部近現代の世界と日本 第1章近代化と私たち 【知識及び技能】 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	第4節 帝国主義とアジア諸国の変容 ・教科書、配布資料 ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	第2部 近現代の世界と日本 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 【知識及び技能】 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がり、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】	第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦 ・教科書、配布資料 ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がり、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】				

2 学 期	調停制、人來江云の形成と江云運動の広がり、国際協調体制の動揺について理解する。 【思考力・判断力・表現力】 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連を多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。					○	○	○	10
	定期考查					○	○		1
	第2部 近現代の世界と日本 第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 【知識及び技能】 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解する。 【思考力・判断力・表現力】 第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	第3節 第二次世界大戦後の世界と日本 ・教科書、配布資料 ・一人1台端末の活用 【知識及び技能】 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。				○	○	○	10
	定期考查					○	○		1
3 学 期	第2部 近現代の世界と日本 第3章 グローバル化と私たち 【知識及び技能】 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。 【思考力・判断力・表現力】 地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 ・教科書、配布資料 ・一人1台端末の活用 【知識及び技能】 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。				○	○	○	10
	第2部 近現代の世界と日本 第3章 グローバル化と私たち 【知識及び技能】 市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 【思考力・判断力・表現力】 市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	第2節 世界秩序の変容と日本 ・教科書、配布資料 ・一人1台端末の活用 【知識及び技能】 市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいる。				○	○	○	8
	定期考查					○	○		1
	合計								
70									

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学科 科目 数学A

教科：数学科 科目：数学A 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～3組

使用教科書：（最新数学A（数研出版））

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。

【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、基礎的な知識の習得を目指し、それを活用する力を身に付ける。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、事象を数学的に考察する能力や、式の成り立ちについて理解し、またそれを説明できる。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、興味・関心を持てるとともに、課題に対しても積極的に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1年次に数学Iで学習した集合についての確認、その要素の個数に関して成立する関係について理解させる。また、事象の数え方について、「樹形図」を用いる方法や、順列・組合せの有用性を理解させるとともに、それを適切に活用できるようにする。	【指導事項】 ・場合の数 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 確率の意味を理解させる。「場合の数」で習得した内容を用い、確率に関する応用的な問題に取り組めるようにする。具体的には「和事象の確率」「余事象の確率」「独立な試行の確率」「反復試行の確率」「条件付き確率」に関する問題について扱えるようにする。	【指導事項】 ・確率 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 中学時代に学習した図形についての復習と、その応用例の定理について考えさせる。	【指導事項】 ・平面図形 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形の性質 第2節 空間図形 平面図形の応用から空間図形について考察できるようにする。また、多面体の性質についての理解を深めさせる。	【指導事項】 ・空間図形 ・約数と倍数 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第3章 整数の性質 第2節 ユークリッドの互除法 ユークリッドの互除法を用いて最大公約数を求められるようにするだけでなく、そのメカニズムを理解し、説明できるようにする。また、互除法の応用について学習できるようにする。	【指導事項】 ・ユークリッドの互除法 ・整数の性質の活用 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか				

3 学 期	法の計算を逆ににたことぐ1 沢个 定方程式の整数解が1 づ得られるこ とを理解させる。		いるかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	16
	第3 節 整数の性質の活用 有理数の小数表現の仕方、n進法へ の変換方法について理解させ、それ を活用できるようにする。						
	定期考査			○	○		1
							合計 70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組・2組・4組

使用教科書：（東京書籍 生物基礎（生基701））

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・観察、実験などを行い、日常生活や社会から問題を見出し、研究する過程を通して、生物学的に正しく判断し、的確に表現する力を身に付ける。	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物の共通性と多様性を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物の多様性 ・生物の多様性は進化の結果、生じたものであることを理解させる。 2節 生物の共通性 ・すべての生物には「細胞からできている」「DNAをもつ」「エネルギーを利用する」「自分と同じ構造をもつ個体をつくる」「体内の状態を一定に保つ」という共通性がみられることを見出させる。 3節 細胞の特徴 ・すべての細胞は細胞膜に包まれた構造とDNAをもつことや、真核細胞は核や複雑な細胞小器官をもち、原核細胞はそれらをもたないこと、生物は細胞の種類で真核生物と原核生物に分けられることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の共通性と多様性について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物とエネルギーを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生体とATP ・生物は、代謝によって生命活動に必要なエネルギーを得ていることを理解させる。 ・生体内でのエネルギーの受け渡しには、ATPが用いられることを理解させる。 2節 生体内の化学反応 ・酵素の主成分はタンパク質で、基質特異性をもつ触媒としてはたらくことを理解させる。 3節 呼吸と光合成 ・呼吸では、酸素を用いて有機物を分解し、化学エネルギーを取り出していることを理解させる。 ・光合成では、光エネルギーを化学エネルギーに変換し、この化学エネルギーを利用して無機物から有機物を合成していることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物とエネルギーについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報を担う物質としてのDNAを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝子とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物と遺伝子 ・生物の形質は、それぞれの生物がもつ遺伝情報によって決まることを理解させる。 ・遺伝情報を担うのが遺伝子であり、遺伝子の本体はDNAであるということを理解させる。 2節 DNAの構造 ・DNAは、塩基・糖・リン酸からなるヌクレオチドが繰り返し並んでできていることを理解させる。 ・4種類のヌクレオチドのうち特定の塩基どうしが結合して、DNAは二重らせん構造となることを理解させる。 3節 DNAの複製と分配 ・DNAの複製では、複製前の2本の鎖が分離し、それぞれ鋳型となって新しい鎖が合成され2本のDNAになることを理解させる。 ・複製は細胞周期のS期に起こることを理解させる。	【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とDNAについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質	1節 タンパク質 ・タンパク質は、生物のさまざまな形質や生命活動にかかわっている	【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・				

	【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報とタンパク質の合成との関係を見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝情報とタンパク質合成に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 定期考査	・これらのタンパク質の情報は遺伝子によってきめられていることを理解させる。 2節 DNAとタンパク質の合成 ・DNAの遺伝情報をもとにして、転写・翻訳という過程を経て、タンパク質が合成されるということを理解させる。 3節 細胞分化と遺伝子 ・個体を構成する細胞は、同一の遺伝情報をもつが、それぞれの細胞で発現する遺伝子は、その細胞の機能により異なることを理解させる。	・遺伝情報の伝達やタンパク質の合成・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とタンパク質の合成について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達 【知識及び技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・神経系と内分泌系による調節について、観察、実験などを通して探究し、体内での情報の伝達が体の調節に係っていることを見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・情報の伝達に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 定期考査	1節 体内環境 ・細胞を取り巻く環境を体内環境と言い、ヒトの身体は恒常性によって体内環境が維持されていることを理解させる。 2節 神経系による情報伝達 ・神経系は、交感神経及び副交感神経を介した情報伝達により、器官の機能を調節し、体内環境の維持に関わっているということを理解させる。 3節 ホルモンによる情報伝達 ・内分泌系では、ホルモンが標的器官に作用し、各器官を調節することで体内環境を維持しているということを理解させる。 4節 血糖濃度の調節 ・血糖濃度は、自律神経系と内分泌系が強調してはたらくことで調節されているということを理解する。	【知識・技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報の伝達に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	10
2学期	定期考査			○	○		1
	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき 【知識及び技能】 ・免疫について、免疫のはたらきのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・免疫のはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 定期考査	1節 免疫のしくみ ・食細胞などによる自然免疫やリンパ球による適応免疫が、病原体の排除にはたらくていることを理解させる。 2節 免疫記憶 ・B細胞やT細胞は、体内に侵入した抗原の情報を記憶して、同種の抗原が再び侵入しても、病気が発症する前に抗原を排除することができるということを理解させる。 3節 免疫とさまざまな疾患 ・免疫が正常にはたらかないと、病原体以外の抗原に過敏に反応するアレルギーや、自己の細胞を抗原として認識してしまう自己免疫疾患などを発症するということを理解させる。 ・AIDSはウイルスにより免疫機能がはたらかなくなる病気であることを理解させる。	【知識・技能】 ・免疫について、免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・免疫の働きについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 【知識及び技能】 ・植生と遷移について、植生と遷移のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、遷移の要因を見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 植生とその環境 ・植生は多様な環境をつくり、さまざまな生物の営みを支えていることを理解させる。 ・植生による環境形成作用で、光環境や土壌が変化することを理解させる。 2節 植生の遷移 ・植生は常に一定ではなく、生物などのはたらきにより環境が変化すると、優占する植物の種が置き換わっていくことを理解させる。 3節 遷移とパイオーム ・世界にはさまざまな植生があり、遷移が進みつつも、最終的には気候に応じた植生になることを理解させる。	【知識・技能】 ・植生と遷移について、植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・植生と遷移について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・植生と遷移に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	6
3学期	4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性 【知識及び技能】 ・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録な	1節 生態系における生物の多様性 ・生態系の中には、環境の違いに応じて、さまざまな生物種が存在していることを理解させる。 2節 生態系における生物間関係	【知識・技能】 ・生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録な				

期	のバランスと保全のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 - 生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、生態系における生物の種多様性を見いだすとともに、生態系のバランスと保全について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 - 生態系とその保全に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	・生態系の中で、生物は捕食・被食を介して複雑につながり、食物網を形成しているということを理解させる。 3節 生態系と攪乱 - 生態系は、攪乱を受けても、もとに戻ろうとする復元力をもつということを理解させるとともに、復元力を超える攪乱が起こると、生態系のバランスが崩れてもとの生態系に戻らないこともあるということを理解させる。 4節 生態系の保全 - 生物の多様性はさまざまな価値をもち、その保全はバランスのとれた生態系を維持するうえで大切である。	どの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 - 生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 3 組

使用教科書：（ 大修館 現代高等学校 保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする

【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要か何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り 体づくり運動(12月まで) 体育理論	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	5
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 バドミントン ゴール型 バスケットボール ベースボール型 ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	8
	武道(剣道)では、伝統的な行動の仕方を大切にし、相手を思いやり、自ら進んで技術の向上に向けて行動できるようにする。 ダンス・トレーニングでは、周りと協調して作品を制作することができるようにする。	武道：礼法・基本動作 ダンス・トレーニング：基本的動き・作品制作	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	8
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 バドミントン ゴール型 バスケットボール ベースボール型 ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
2 学 期	陸上競技では、個人の目標に向かって基本動作を習得し、記録に挑戦する。 水泳では、基本動作の習得、4泳法の習得を目標に展開する。さらに、個人の記録にも挑戦できるように活動する。	陸上競技（ハードル・高跳び） 水泳	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	14
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 バドミントン ゴール型 バスケットボール ベースボール型 ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 理論の理解と応用 【思考・判断・表現力等】ゲームの運営 理論の工夫と発表 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	13
3 学 期	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を目標設定をして走り通す。	陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の組票の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	8
	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
							合計 70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 3 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組

使用教科書：（ 大修館 現代高等学校 保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする

【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要か何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り 体づくり運動(12月まで)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 バドミントン ゴール型 バスケットボール ベースボール型 ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得, 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	13
	武道(剣道)では、伝統的な行動の仕方を大切にし、相手を思いやり、自ら進んで技術の向上に向けて行動できるようにする。 ダンス・トレーニングでは、周りと協調して作品を制作することができるようにする。	武道：礼法・基本動作 ダンス・トレーニング：基本的動き・作品制作	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	11
	ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること。ダブルスなどでは、役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ネット型対人 バドミントン・ソフトバレーボール ゴール型 バスケットボール・モルック ベースボール型 ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	10
2 学 期	陸上競技では、個人の目標に向かって基本動作を習得し、記録に挑戦する。 水泳では、基本動作の習得、4泳法の習得を目標に展開する。さらに、個人の記録にも挑戦できるように活動する。	陸上競技（ハードル・高跳び） 水泳	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	21
	ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの特徴などについて理解する。	ベース型 ソフトボール 体育理論	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック、理論の理解と応用 【思考・判断・表現力等】ゲームの運営 理論の工夫と発表 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	18
3 学 期	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を目標設定をして走り通す。	陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の組票の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	12
	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(短距離) 個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	13
							合計 105

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（大修館書店 現代高等保健体育 ）

教科 保健 の目標：

【知 識 及 び 技 能】健康で安全な生活を送るために必要な知識と取り組みを理解させる

【思考力、判断力、表現力等】自分自身の健康と周りの人々の健康について具体的に課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、行動できるようにする

【学びに向かう力、人間性等】最新の知識をアップデートし、正しい判断と行動ができるようになる

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
交通事故の現状と応急処置の方法、家族計画と妊娠出産のメカニズム、環境問題についての知識と技能を養う。	それぞれの単元の「考えてみよう」のワークを利用し、自己表現ができるようにする。	新しい知識と将来を見据えた問題点を想像し解決する力を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	交通時とその他の状況 様々な場面で起こる事故とその被害の実態について理解する。 交通事故の要因 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解する。	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	【知識・技能】交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 【思考・判断・表現】安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	応急手当の方法 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。 応急処置について 救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、適切な利用方法について理解する。	適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身につけるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	【知識・技能】応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【思考・判断・表現】応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。 【主体的に学習に取り組む態度】応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	○	○	○	4
	思春期と健康 思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 思春期の健康課題について 思春期に起こりやすい健康課題について理解する。	思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	【知識・技能】生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【思考・判断・表現】思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に取り組む態度】結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1
2 学 期	妊娠と出産 受精、妊娠、出産の過程と、それに伴う健康課題について理解する。妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて理解する。	結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	【知識・技能】生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【思考・判断・表現】思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に取り組む態度】結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。	○	○	○	3
	家族計画 家族計画の意義について理解する。人工妊娠中絶が心身へ与える影響について理解する。			○	○	○	3
	加齢と健康 加齢による心身の変化や、高齢期の健康課題について理解する。若年期の生活習慣が中高年期の健康に影響することを理解する。	加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。		○	○	○	3

[illegible]

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	①発声方法と歌唱表現を身につけて、豊かな表現で歌う。 ②楽譜の読み方・書き方をまなび、読譜力を身に付ける。	・ベルカント唱法を基本とした発声練習 ・校歌・独唱曲・合唱曲の表現方法 ・楽典 楽譜の正しい読み方書き方を身につけて表現を生かすようにする。	○			○	観察 課題 学習プリント	○	○	○	6
	①外国語の発音や特徴を理解し、歌詞の内容や曲調にあった表現を身につける。 ②鑑賞をととして音楽の諸要素を理解して音楽のよさを理解する。	・芸術歌曲の表現方法 イタリア歌曲の性格を捉え、表現方法について学び歌う。 ・イタリア音楽について理解し、歴史・言語も学びながら楽曲を鑑賞する。	○			○	観察 課題 学習プリント 小テスト	○	○	○	10
	①器楽合奏を通して曲にふさわしい奏法や技術を身に付ける。	ギターの正しい奏法を身につけて、演奏の基本を学び、TAB譜を見ながらギター演奏をする。		○			観察 課題 学習プリント 実技試験	○	○	○	10
	①リズム合奏を通してリズムパターンを覚えて様々なリズムを理解する。	豊かな音色になるよう、様々な打楽器を組み合わせて演奏し、アンサンブルを楽しみながら合奏する。		○			観察 課題 学習プリント 確認テスト	○	○	○	6
2 学 期	①合唱を通して美しいハーモニーを感じながら歌唱する。	・ハーモニーを感じながら合唱する。 ・ハーモニーを楽しみながらパートに分かれて歌唱練習をする。 ・美しい発音で、歌詞の内容や背景を理解し、情景を思い浮かべながら歌唱表現を工夫する。	○				観察 課題 学習プリント 実技試験	○	○	○	10
	①器楽アンサンブルを通して、曲調や特徴を理解して自分なりの表現で演奏をしよう ②創作を楽しもう。	・曲調にふさわしい表現になるよう工夫をする。 ・音楽の特徴を生かしながらアンサンブルをする。 ・イメージにあった創作工夫を生かして表現できるよう音楽理論を理解した上で創作活動を行う。		○	○		観察 課題 学習プリント 確認テスト	○	○	○	10
3 学 期	①絵本の主題歌を作ってみよう。	・絵本を選んで、内容に合った歌詞とメロディを考え、自分が表現したい世界感を楽譜で表現する。自己のイメージをもって創意工夫して音楽をつくる。	○			○	観察 課題 学習プリント 作品発表	○	○	○	10
	①伝統音楽の鑑賞をととして文化的背景・歴史的背景を学ぶ。	・雅楽・能・箏曲・尺八など、さまざまな日本の伝統音楽について学び、楽曲を鑑賞しながら伝統音楽への理解を深める。		○		○	観察 課題 学習プリント 確認テスト	○	○	○	8 合 計 70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教科：芸術 科目：書道Ⅰ 単位数： 単位 2

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 4 組

使用教科書：（ 光村図書 「書Ⅰ」 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付ける

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数		
			漢 仮	漢	仮								
1 学 期	単元「書写から書道へ」 ◎小・中学校国語科書写で学習した、基本的な知識・技能を確認させる。 単元「様々な書体の変遷、臨書とは」 ◎古典の臨書を通して技法を学び、表現に生かす学習方法について理解させる。	① 筆使い、筆順、字形、配列など小・中学校の国語科書写で学習した内容を確認する。 ②漢字には五つの書体があること、それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。					【知識・技能】 書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、小・中学校の国語科書写で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。		○		○	8	
	単元「文字の造形を学ぶ【楷書】」 単元「あなたは、どの楷書が好き？」 ◎日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。	①A～Dのグループの文字を比較し、自分が好きなものを選ぶ。 ②その文字を選んだ理由や受ける印象を自由に話し合う。 ③選んだ文字ごとにグループを作り、自分が受けた印象は、文字を形成するどの要素から感じ取れるかを話し合う。					【知識・技能】日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷について理解している。 【思考・判断・表現】漢字の古典の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。【主体的に学習に取り組む態度】漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心をもち、主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○		○	○	4
	単元「唐の四大家に学ぶ楷書の基本」 ◎楷書の古典「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」「牛嶺造像記」の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①唐の四大家の人物や政治的立場など、その人物像を理解する。 ②初唐の三大家と太宗の関係について理解する。 ③唐の四大家の代表作を知り、書道史において果たした役割や位置づけに関連づけて理解する。					【知識・技能】楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○		○	○	10
	単元「文字の造形を学ぶ【行書】」 ◎行書の古典「蘭亭序」「争坐位文稿」「蜀素帖」「風信帖」の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①行書の成立過程や通行書体としての性質を再確認し、行書を楷書と比較して、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。 ②「蘭亭序」を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿を感じ取る。					【知識・技能】行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○		○		10
2 学 期	単元「文字の造形を学ぶ【草書・隷書・篆書】」 ◎草書、隷書、篆書の古典「真草千字文」「曹全碑」「泰山刻石」の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	①草書・隷書・篆書の成立過程や通行書体としての性質を再確認する。 ②それぞれの古典が作られた経緯や書風について理解する。 ③学習のめあてと、成立・特徴を確認し、観賞・臨書を通し、点画や線質の特徴を理解する。					【知識・技能】草書・隷書・篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考・判断・表現】草書・隷書・篆書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○		○		8
	単元「漢字の創作」「古典を生かした創作」 ◎漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につける。	①創作の手順を理解し、書く言葉を決め、表現のイメージを明確にもつ。 ②これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ③試作を重ね、表現を工夫する。落款を入れ、作品を仕上げる。作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。					【知識・技能】漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】漢字の古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		○		○		10
	単元「仮名の成立と種類、仮名の筆使い」「平仮名」「変体仮名」	①漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の					【知識・技能】線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。						

3 学 期	◎仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 ◎仮名の古筆「蓬萊切」「高野切三種」にて書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	種類を理解する。 ②臨書する部分を観察し、意連・形連のしかたや筆脈の流れ、墨継ぎの場所を確認する。伸びやかな用筆・運筆を意識して臨書する。				【思考・判断・表現】仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書の下さや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				10
	単元「漢字仮名交じりの書」「好きな言葉を書こう」 ◎漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。	①漢字仮名交じり創作の手順を理解し、表現のイメージを明確にもつ。 ②これまでに学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 ③試作を重ね、表現を工夫する。落款を入れ、作品を仕上げる。作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。			【知識・技能】線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じり文の成立について理解している。 【思考・判断・表現】創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書の下さや美しさを味わって捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている				10	合計 70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 芸術 科目 美術

教 科： 芸術 科 目： 美術 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 3 組～ 4 組

使用教科書： （「高校生の美術Ⅰ」（日本文教出版））

教科 芸術 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映							
1 学 期	・表現/絵画「鉛筆デッサンと各種技法による考察」 【知識及び技能】 道具の使用法、課題に沿った技法を活用する力を育てる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分が意図したコンセプトを表現するため、学んだ技法を創意工夫して使用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 学んだこと技術や表現方法、鑑賞で得た他者の工夫点などを参考に、今後の「表現」についての自身の引き出しを増やすようにする。	・指導事項：鉛筆デッサン、ワークシート・技法を使用した課題制作 ・教材：スケッチブック、デッサン用鉛筆、カッター、絵の具、身近な道具（スポンジや紙コップ等）	○					・課題に取り組む意義や目的を理解し、計画的に制作に取り組むことができるか。・道具の使用法を適切に理解しているか・学んだ技法を生かし、且つ、自分の意図する表現ができるよう工夫しているか。・創意工夫をして表現できているか。	○	○	○	14
	・表現/絵画・デザイン「エコバックプリントの作成」（指導目標は上記と同じ）	・指導事項：前半で学んだ技法を生かして「エコバックのプリント面をデザインする」生活を豊かにするデザインのコンセプトを考え、提出日までに完成する計画を立てる。 ・教材：スケッチブック、絵の具、身近な道具（スポンジや紙コップ等）、エコバック	○	○				・道具の使用法、課題の目的を適切に理解しているか。・デザインのコンセプトを各自で考え、表現できているか。・自分で考えたコンセプトを伝えるためのデザインや技法を創意工夫できているか。	○	○	○	10
	・鑑賞「作品講評会」（指導目標は上記と同じ）	指導事項：エコバックを元に講評会をし、各自がたてたコンセプトに則した表現ができているか客観的に判断する。 ・教材：作品「エコバック」					○	・自分が意図したコンセプトに沿ったデザインで表現できているか。・自分の考えを伝えるために適した言語化ができているか。・自分の作品を主体的に紹介したり、他人の意見を今後活かせる工夫ができているか。	○	○	○	2
2 学 期	・表現/絵画・デザイン「スケッチブックの表紙作成」 【知識及び技能】 コラージュや樹脂粘土、エポキシ樹脂などの技法を学び、表現方法の多様性を知る。 【思考力、判断力、表現力等】 「自分らしさ」や「季節」をテーマにすることで、それらについて深く考察する機会を得て、且つ、それらを「表現すること」についての意義を知る。 【学びに向かう力、人間性等】 授業経験を経て、身の周りのデザインに込められた作者の意図や工夫にも目を向け、自身の人生を豊かにする参考に取り入れる力を育む。	・指導事項：ワークシートや小課題の提出による技法の習得を参考に、「自分らしさ」をテーマに各自のスケッチブック表紙を作品として装飾する ・教材：スケッチブック、色紙、コラージュ用写真や小物	○	○				・学んだ技法を効果的に使用し、表現できているか。・「自分らしさ」をテーマにした場合、自分と向き合い、装飾表現として意匠化できているか。・「自分らしさ」とは何かについて考え、客観的にデザインとして表す創意工夫をしているか。	○	○	○	10
	・表現/立体・デザイン「季節を感じる」マグネットフック制作（指導目標は上記と同じ）	・指導事項：生活にユーモアや季節感を感じる道具をデザインするとともに、モチーフを観察し立体的に再現する力もつける。 ・教材：樹脂粘土、エポキシ樹脂セット、絵の具、やすり	○	○				・日本の四季をモチーフにして立体再現を前提とした制作計画が立てられるか。・「日本の季節感」をどう表現するか。・立体が苦手な生徒は「単純な形」のモチーフを選びがちだが、より複雑な形に挑戦したり、創意工夫した表現に挑んだか。	○	○	○	14
	・鑑賞「作品講評会」（指導目標は上記と同じ）	・指導事項：コンセプトに沿って表現ができたか、学んだ技法をどう生かしたかなどを発表し、お互いの作品を鑑賞することで「作品に込められた作者の思い」についても考える。 ・教材：作成したスケッチブック表紙、樹脂フック					○	・自分が意図したコンセプトに沿ったデザインで創意工夫、表現ができているか。・自分の考えを伝えるために適した言語化ができているか。・自分の作品を主体的に紹介したり、他人の意見を今後活かせる工夫ができているか。	○	○	○	2

[illegible]

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教 科： 外国語 科 目： 英語コミュニケーションⅡ 単位数： 4 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（ 数研出版 COMET English Communication II ）

- 教科 外国語 の目標：
- 【知 識 及 び 技 能】

英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】

英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】

相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能を身に付ける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	A 単元 Places Worth Visiting 【知識及び技能】 「行きたい場所」を表現するときに見える基本的な単語を理解している。また、want+人+to doやask+人+to doの用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「行きたい場所」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 「行きたい場所」について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。	・指導事項 want+人+to do ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○		○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. want+人+ to doを用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な名所について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	8
	B 単元 Iwago Mitsuaki 【知識及び技能】 写真の撮り方に関する単語を理解している。また、疑問詞+to不定詞の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「自分の好きな写真」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 岩合光昭さんの考え方や、写真について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。	・指導事項 疑問詞+ to不定詞 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用						【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 疑問詞+to不定詞を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 写真について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。				
	C 単元 The Haka 【知識及び技能】 世界の文化に関する単語を理解している。また、分詞の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「世界の文化」について英語で書き、発表することができる 【学びに向かう力、人間性等】 世界の文化について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。	・指導事項 分詞 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○		○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 分詞を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の文化について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	20
	定期考査								○	○		1
	D 単元 Digital Detox 【知識及び技能】 デジタル機器に関する単語を理解している、またif節・疑問詞節の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「デジタル機器との関わり方」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・デジタル機器との関わり方について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。	・指導事項 if節・疑問詞節 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用		○					○	○	○	12
	E 単元 Goal Setting 【知識及び技能】	・指導事項 seem						【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。				

2 学 期	目標設定に関する単語を理解している、またseemの使い方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「目標設定」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 目標設定について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。 F 単元 The High School Hair Salon 【知識及び技能】 職業に関する単語を理解している、また助動詞＋have＋過去分詞の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「つきたい職業」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 「つきたい職業」について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。	- 教材 教科書、ワークブック - 一人1台端末の活用 - 指導事項 助動詞＋have＋過去分詞 - 教材 教科書、ワークブック - 一人1台端末の活用	○	○	○	○	【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. seemを用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 目標設定について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	20
	定期考査							○	○		1
	G 単元 You Can Make a Difference 【知識及び技能】 環境に関する単語を理解している、また過去完了形の使い方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「環境問題」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 環境問題について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。	- 指導事項 過去完了形 - 教材 教科書、ワークブック - 一人1台端末の活用	○	○	○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 過去完了形を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 環境問題について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	12
	H 単元 Nudge 【知識及び技能】 問題解決に関する単語を理解している、また関係代名詞の使い方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「身の回りの問題解決」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。	- 指導事項 関係代名詞 - 教材 教科書、ワークブック - 一人1台端末の活用					【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 関係代名詞を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な問題解決について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。				
2 学 期	I 単元 The Father of Braille Blocks 【知識及び技能】 社会福祉に関する単語を理解している、また関係副詞の使い方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「社会福祉」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 誰もが暮らしやすい社会について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。	- 指導事項 関係副詞 - 教材 教科書、ワークブック - 一人1台端末の活用	○	○	○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 関係副詞を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 社会福祉について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	17
	定期考査							○	○		1
	J 単元 【知識及び技能】 に関する単語を理解している、またの使い方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「J」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 について関心を持ち、自分の考えを持つことができる。	- 指導事項 - 教材 教科書、ワークブック - 一人1台端末の活用					【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 について関心を持ち、積極的に発言しようとしたり、聞こうとしたりした。				20
	定期考査							○	○		1

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅰ

教科：外国語 科目：論理・表現Ⅰ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 3組～4組

使用教科書：（開隆堂 APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅠ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 論理・表現Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用し実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	単元 Lesson 1. 2 【知識及び技能】 基本時制（現在・過去・進行形）、未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な出来事や、自分の考えなどを整理して、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手の話す内容にきちんと耳を傾けたりしている。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・自己紹介など場面に応じた特有の言い回しができる。 ・さまざまな時制の違いとその表現を理解している。 ・あこがれの人について、わかりやすくて正確に紹介できる。	○	○	○	9
	定期考査								○	○		1
	単元 Lesson3. 4. 5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、経験や好きなものについての紹介を伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グループでの話し合いを通して自分たちの考えをまとめ、それを積極的に伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・助動詞を正しく理解し多彩な表現ができる。 ・完了形と過去形の違いを理解し、使い分けができる。 ・能動態と受動態の使い分けを意識して表現することができる。	○	○	○	14
	定期考査								○	○		1
2 学 期	単元 Lesson6. 7. 8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育成、動名詞とto不定詞の名詞的用法を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な表現方法を見つけ、相手に伝え合うことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞を正しく理解している。 ・比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞を用いて積極的に表現できる。 ・ギネスブックに載せるための計画や、食品ロスのデータを比較した表現ができる。	○	○	○	12
	定期考査								○	○		1
	単元 Lesson9. 10. 11 【知識及び技能】 to不定詞(形容詞的用法、副詞的用法)・分詞・関係詞(関係代名詞) 【思考力、判断力、表現力等】 to不定詞(形容詞的用法、副詞的用法)・分詞・関係詞(関係代名詞)を理解して、使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 身の回りで起こったことについて、順序立てて相手に伝え合うことができる。	・指導事項 to不定詞(形容詞的用法、副詞的用法)・分詞・関係詞(関係代名詞)を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	・to不定詞(形容詞的用法、副詞的用法)・分詞・関係詞(関係代名詞)を理解し適切な使い分けができる。 ・関係詞の特徴を理解し空欄補充などの問題を解くことができる。 ・グループで考えたオリジナル製品のアイデアをクラスで発表するために、自分たちの考えや情報を積極的に伝えようとしている。	○	○	○	14
	定期考査								○	○		1

3 学 期	単元 Lesson12. 13. 14. 【知識及び技能】 関係詞(関係副詞)、仮定法、接続詞 【思考力、判断力、表現力等】 関係詞(関係副詞)、仮定法、接続詞 を理解して、使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 メールの書き方や、仮定法を使った アドバイスなどを通して、お互いの 気持ちを伝え合うことができる。	・指導事項 関係詞(関係副詞)、仮定法、接続 詞を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	関係詞(関係副詞)、仮定法、接続詞につい て理解し、演習問題にも対応することがで きる。 ・仮定法の基本構文を理解し、仮定法を 使って自分の考えを相手に伝える文章を書 くことができる。	○	○	○	16
	定期考査								○	○		1
												合 計
												70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭 科 目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書： （（教育図書） フードデザイン Food Changes LIFE ）

教科 家庭 の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 健康と食生活 食事の意義と役割 食を取り巻く現状 【知識及び技能】 ・食事の意義と役割について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	・健康と食生活 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・食事の意義と役割及び我が国の食生活の現状について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	14
	第2章 栄養素・食品の特徴 栄養素の働き 健康に必要な栄養素 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	・栄養素と食品の特徴 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（ワークシート/行動観察）	○	○	○	18
	定期試験			○	○		1
2 学 期	第2章 栄養素・食品の特徴 食品の特徴 食品加工の目的 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	・栄養素と食品の特徴 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。（定期試験/ワークシート/行動観察） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。（行動観察）	○	○	○	18
	第3章 調理と献立 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。	・献立と調理 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1

3 学 期	調理実習第3章 調理と献立 様式別の献立と調理・食卓作法 食文化を見つめる テーブルコーディネート 【知識及び技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしている。 定期考査	・献立と調理 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・我が国や世界の食文化を理解するとともに、食事のテーマに応じた調理、テーブルコーディネートと各料理のサービス方法について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 【思考・判断・表現】 ・日常の食卓の工夫をはじめ、代表的な料理様式とともに自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・世界の食文化について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ共同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	13
				○	○		1
							合計
							70

家庭	科目	栄養
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12
13	13	13
14	14	14
15	15	15
16	16	16
17	17	17
18	18	18
19	19	19
20	20	20
21	21	21
22	22	22
23	23	23
24	24	24
25	25	25
26	26	26
27	27	27
28	28	28
29	29	29
30	30	30
31	31	31
32	32	32
33	33	33
34	34	34
35	35	35
36	36	36
37	37	37
38	38	38
39	39	39
40	40	40
41	41	41
42	42	42
43	43	43
44	44	44
45	45	45
46	46	46
47	47	47
48	48	48
49	49	49
50	50	50
51	51	51
52	52	52
53	53	53
54	54	54
55	55	55
56	56	56
57	57	57
58	58	58
59	59	59
60	60	60
61	61	61
62	62	62
63	63	63
64	64	64
65	65	65
66	66	66
67	67	67
68	68	68
69	69	69
70	70	70
71	71	71
72	72	72
73	73	73
74	74	74
75	75	75
76	76	76
77	77	77
78	78	78
79	79	79
80	80	80
81	81	81
82	82	82
83	83	83
84	84	84
85	85	85
86	86	86
87	87	87
88	88	88
89	89	89
90	90	90
91	91	91
92	92	92
93	93	93
94	94	94
95	95	95
96	96	96
97	97	97
98	98	98
99	99	99
100	100	100

單位數： 2 單位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（ 実教出版 栄養 ）

教科 家庭

の目標： 家庭生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知 識 及 び 技 能】 家庭生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭生活に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 栄養

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 1. 栄養とは 5大栄養素の種類と働きについて深く学び、栄養学の基礎を正しく興味を持って理解する。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 栄養に関する分野について、学習指導要領に即した内容を理解できているか。 【思考・判断・表現】 既習内容を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	5
	栄養素の機能と代謝について理解し、興味関心を持つ。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 栄養素の代謝を理解出来ているか。 振り返り（小テスト）を行う。 【思考・判断・表現】 代謝についてその原理を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	食欲と消化・吸収の仕組みを理解し、興味関心を持つ。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 消化吸収について、理解できているか。 【思考・判断・表現】 消化吸収について、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 調査とレポートで学びを深められたか。	○	○	○	10
	・食事摂取基準について、食品群別摂取量の目安について理解し、興味関心を持つ。 ・主な食品の目測ができる。 ・献立の評価ができる。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 4群法の正しい理解ができているか。 1日に必要な食品の目測ができるか。 【思考・判断・表現】 食事摂取基準を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 献立の評価と改善に取り組めたか。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学期	B ライフスタイルと栄養について概要と各論を学ぶ。 ・乳幼児栄養、青年期栄養、高齢者栄養の特徴を知る。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ライフステージと栄養について理解したか。 【思考・判断・表現】 課題を設定して調査研究ができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	10
	C 病状と栄養について学ぶ。栄養障害、病態時の栄養、食事療法について学び、現状を理解する。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 正しく理解できているか。 【思考・判断・表現】 適切な課題学習のテーマを設定できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題解決を目的とし挑戦できたか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学期	D 食品学的な実験・実習 ・膨化剤と調理 ・凝固剤と調理 ・野菜の色素 PH ・五味識別テスト ・うま味の相乗効果 ・適切な塩分濃度と味覚	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活学n a v i ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 食品の特徴を理解できたか。 【思考・判断・表現】 実験の目的を理解し、結果や考察を示せるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 体験学習に積極的に取り組めたか。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
合計							70

高等学校 令和5年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭 科 目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 4 組

使用教科書：（ 図説 家庭基礎（実教出版） ）

教科 家庭 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 生活に必要な知識と技術を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解する。
- 【学びに向かう力、人間性等】 男女が主体的に家庭や地域の生活を想像する能力と実践的な態度を育てる。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実・向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	はじめに よりよい生活をめざすための課題解決 自分らしい生き方と家族 1 「自立する」とは？ 【知識及び技能】「4つの自立」の必要性について理解し、自己の自立とも関わらせながら考えを深める。 【思考力、判断力、表現力等】今後の人生に向けて自立のためには生活スキルが必要であり、他者との支え合いや社会の支援の中で成り立つことを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】青年期の課題を理解し、自立に向けての目的意識をもつ。	1. 一年間の授業の進め方 2. 生き方の多様性とこれからの人生を理解させる。 3. 青年期と自立について考えさせ、生活的自立と社会的、経済的、性的自立ができる力を養わせる。	【知識・技能】「4つの自立」について必要な基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題の解決を目指して、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】自己の自立を目指して青年期の課題に関心を持って取り組んでいる。	○	○	○	6
	食生活をつくる 【知識及び技能】健康な食生活を営むために必要な栄養、食品、表示、また食品の保存と食中毒・食品添加物について基本的な知識と技術を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】食の安全性や健康で安全な食生活を支えるうえでの問題や課題を探る。 【学びに向かう力、人間性等】食事の意義や役割を理解し、現代の食生活の課題について関心をもつ。	1. 栄養とその働き、食品の選択を理解させる。 2. 食品の取り扱いを知り、食事の計画を立てさせる。 3. 調理実習 4. 食品の安全性を理解する。	【知識・技能】食生活の重要性を理解し、栄養や食品の性質や保存、食中毒や食品添加物など、食品の選択に関わる基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】栄養、安全性、環境などの多様な視点を持ち、現代の食生活の問題点および課題を見出し、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】栄養や食品に関心を持ち、自己の食生活を振り返り、健康で安全な食生活を目指す学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	衣生活をつくる 【知識及び技能】健康で快適な衣生活を営むために必要な材料や管理などの基礎的基本的な知識と技術を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】環境負荷の少ない購入・管理・消費についての問題意識を持つ。 【学びに向かう力、人間性等】衣服の選択の重要性について理解する。	1. 衣服の選択と自分らしい衣生活を考えさせる。 2. 衣服の材料や管理について理解させる。 3. 衣服をめぐるトラブルと表示の見方を知らせる。 4. 被服製作	【知識・技能】被服の機能を理解し、被服材料や管理についての基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】資源の有効利用の観点から衣生活をとらえて、環境や安全などに関わる問題点及び課題を見出し、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】被服材料の性能等に関心を持ち、健康で快適な装着のために必要な知識や技術の習得に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	定期考查 ホームプロジェクト			○	○		2
2 学 期	住生活をつくる 【知識及び技能】住まいの機能および住環境について、住まいの選択の観点から必要な基礎的基本的な知識と技術を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】住まいの改善、地域での住まい方、まちづくりについて考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】住まいの役割について考え、住まいの多様性について理解を深める。	1. 住まいの選択と住まいの安全性を理解させる。 2. ライフスタイルに応じた間取りを考えさせる。 3. 平面図実習	【知識・技能】健康で安全な住まいや住まい方をするために必要な基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】環境や安全に配慮した住まいづくりやまちづくりを目指して、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】住まいや住環境に興味を持ち、健康で安全かつ快適な住環境を考えようとしている。	○	○	○	8
	消費行動を考える 【知識及び技能】消費生活の現状や家庭経済と社会のかかわりを理解し、消費者として主体的に判断し、	1. 広がる経済社会と消費生活の現状を理解させる。 2. 契約と消費者信用、問題商法について理解させ、消費者の権利	【知識・技能】家計の管理や家庭経済、契約の原理と消費者信用の内容を理解している。 【思考・判断・表現】具体的な事例を通して、環境負荷の少ない消費生活についての思				

	行動できる力を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】電子商取引や問題商法などの被害について知り、どのような対応が必要か考える。 【学びに向かう力、人間性等】100円ショップやスマホといった身近なものから現代の消費生活の問題に関心をもつ。	と救済の仕組みを知らせる。	考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】消費生活について関心を持ち、適切な意思決定や消費行動について考えようとしている。	○	○	○	9
	自分らしい生き方と家族 2 多様化した社会を生きる 【知識及び技能】家族や家庭生活のあり方や男女の平等と多様な人々との共生を理解するとともに、法律や個人・社会を支える社会システムの重要性を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】ワークルールや社会保険の内容について知り、自らの権利を守り、人間らしく働き続けられる力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】社会の変化と家族の現状と課題に鳥ついて理解する。	1. 社会の変化と家族の変化を知り、課題について考えさせる。 2. 家族をめぐる法律を理解させ、多様な生き方があることを知らせる。 3. 生活時間と仕事の現状と課題について理解させる。	【知識・技能】男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスなど、現代の家族やライフスタイルをめぐる問題などについての基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】家族法の内容と今後の課題について多様な生き方を尊重し、男女が協力して社会を築くという考え方を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】家族や家庭生活のあり方に関心を持ち、男女が協力して家庭や社会を築くことの重要性を考えようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	子どもとかわる 【知識及び技能】親になるということの意味と子どものを生き育てていくにはどのような条件が必要か考える。 【思考力、判断力、表現力等】子どもを取り巻く環境や子育ての現状や課題について考え、解決法を探る。 【学びに向かう力、人間性等】子どもを取り巻く環境や子育ての現状、課題について考え、解決法を探る。	1. こどもの心身の発達と子どもの生活を理解させる。 2. こどもの保育の場の変化や社会・地域の子育て支援について知らせる。 3. こどもを取り巻く社会の課題について考えさせる。	【知識・技能】子どもの心身の発達と生活、親の役割、子育て支援等について、基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】子どもを取り巻く現状を理解し、子育てに関する問題や課題を見出し、その解決に向けて思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】子どもや子育てに関心を持ち、子どもを支える一人としてあるいは将来の親として、子どもの健やかな成長について、意欲的に考えようとする。	○	○	○	8
	高齢者とかわる 【知識及び技能】高齢社会、貧困や障がいなどの課題から、福祉のあり方や共生社会について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】高齢者や障がい者の特徴や生活を理解し、自立した生活を支えるために社会等が果たす役割を考える。 【学びに向かう力、人間性等】社会保障の必要性と国による考え方の違いを理解し、日本の制度と今後のあり方について考える。	1. 高齢者の理解と高齢者福祉、障がい者の現状と障がい者ふくしについて理解させる。2. 社会保障の必要性と日本の制度について知らせる。	【知識・技能】高齢者の特徴と理解し、高齢社会と障がい、貧困の現状と課題、福祉制度について、基礎的基本的な知識を身につけている。 【思考・判断・表現】生涯を通じた社会保障の必要性について、考えを深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】高齢社会や貧困、障害についての問題、社会福祉制度について関心を持ち、自らの課題として考えようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		70
							合計

[illegible]

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 子供と音楽

教科： 家庭 科 目： 子供と音楽 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書： （ なし ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活に必要な知識と技術を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解する。

【学びに向かう力、人間性等】男女が主体的に家庭や地域の生活を想像する能力と実践的な態度を育てる。

科目 子供と音楽 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ピアノやその他の楽器を用いた伴奏や歌唱など保育を担う職業人としての知識及び技術を身に付ける。	子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につける。	子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、全国高等学校家庭科技術検定保育検定に3級を受験する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	「器楽」ピアノ演奏 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】歌唱表現や楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフェージュ（聴音）	【知識・技能】ピアノを用いた伴奏や歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになっているとしている。	○	○	○	23
	定期考査		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論	○	○		1
2 学 期	「器楽」ピアノ演奏 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】歌唱表現や楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。	1. 日本と世界の行事に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則16～30のピアノ演奏 3. 音楽理論（反復記号等） 4. ソルフェージュ（視唱等）	【知識・技能】ピアノを用いた伴奏や歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになっているとしている。	○	○	○	26
	定期考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○		2
3 学 期	「器楽」ピアノ演奏 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】歌唱表現や楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。	1. 日本歌曲の歌唱 2. バイエル教則31～45のピアノ演奏 3. 音楽理論（調判定等）	【知識・技能】ピアノを用いた伴奏や歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになっているとしている。	○	○	○	17
	定期考査		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論	○	○		1
							合計 70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 子供と体育

教 科： 家庭 科 目： 子供と体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（なし）

教科 家庭

の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、 実践的・体験的な学習活動を通して、
様々な人々と協働し よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 子供と体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	仲間づくり 運動遊び 【知識及び技能】仲間づくりに活用できる活動や年齢に応じた活動についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】年齢に応じた身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・オリエンテーション ・仲間づくりの運動遊び ・からだを使った運動遊び	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	12
	運動遊び 保育活動のための道具製作 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動や身近な道具を保育活動へ活用する方法及びその指導についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】年齢に応じた身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・身近にあるものを使った運動 ・道具（手具）を使った運動	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、道具製作の工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	13
	定期考査		実技（身体表現）	○	○		1
2 学 期	運動遊び 保育活動のための道具製作 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動や身近な道具を保育活動へ活用する方法及びその指導についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】リトミックを活用した身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・身近にあるものを使った運動 ・道具（手具）を使った運動 ・リトミック	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、道具製作の工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加	○	○	○	15
	運動遊び 道具（手具）の活用 【知識及び技能】年齢に応じた活動についての知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】リトミックを活用した身体の使い方や子どもの注意を引き付ける表現などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】運動活動を通じて、将来現場で楽しく指導ができるようにする。	・からだを使った運動遊び ・道具（手具）を使った運動 ・リトミック ・運動遊びの創作	【知識・技能】 基本的な動作や方法の理解 【思考・判断・表現】 体を使った表現活動、子どもが活動しやすい運動遊びの創作工夫、レポート記入 【主体的に学習に取り組む態度】 活動への積極的な参加				

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 食文化

教科： 家庭 科目： 食文化 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（食文化概論）

教科 家庭 の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加速・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 食文化 の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第2章 日本の食文化 第3節行事食と郷土料理 【知識及び技能】 日常食、行事食、郷土料理の文化的、歴史的な側面や発展について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・日本の食文化 日常食、行事食について 郷土料理について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	第1章 食と文化 第1節食文化の成り立ち 第2節多様な食文化 【知識及び技能】 気候や風土などの自然環境や宗教、風俗・習慣などとの関わりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・食文化の成り立ち ・多様な食文化とその背景について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第1章 食と文化 第3節 食文化の共通化と国際化 【知識及び技能】 気候や風土などの自然環境や宗教、風俗・習慣などとの関わりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・食文化の共通化や国際化 世界の主な食文化圏について 主食、調理方法、宗教と食物禁忌について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	10
	第2章 日本の食文化 第1節日本の食文化史 第2節日本料理と食文化 【知識及び技能】 日常食、行事食、郷土料理の文化的、歴史的な側面や発展について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・日本の食文化の変遷と料理様式 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	第3章 世界の料理と食文化 第1節西洋料理の食文化 第2節中国料理と食文化 【知識及び技能】 主な食文化圏とその料理の特徴や食のグローバル化による食生活の変容について理解し関連する技術を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・世界の食文化圏や料理様式について ・西洋料理、中国料理について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第3章 世界の料理と食文化 第3節その他の国の料理と食文化 【知識及び技能】 歴史と食文化圏の関わりやグローバル化の進展に伴う料理や食文化の変化について課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・世界の様々な料理、食材料、料理・料理様式、食事作法について 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1

							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用）

教科 家庭

科目 生活と福祉

教科：家庭

科目：生活と福祉

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（生活と福祉）

教科 家庭

の目標：生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加速・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 生活と福祉

の目標：家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1章 人の一生と生活・健康 【知識及び技能】 健康の概念やライフステージにおける健康管理について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・健康の概念やライフステージにおける健康管理について ・健康とは ・生活習慣病と健康 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 高齢化の現状や高齢者の心身の特徴、生活課題の施策について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢化の現状と高齢者の心身の特徴について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	3章 高齢者の自立生活支援 【知識及び技能】 自立生活支援と高齢者介護について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢者の自立生活支援と高齢者介護について ・認知症とのかかわり方、介護について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	4章 高齢者の支援の法律と制度 【知識及び技能】 社会保障制度、高齢者福祉、介護保険、地域包括ケアシステムについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢者支援の法律と制度 ・地域包括ケアシステムについて ・介護保険について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート				12
	定期考査			○	○		1
3 学 期	5章 介護・看護の実習と生活支援 【知識及び技能】 介護・看護の実践について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・介護・看護の実践について理解 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	19
	定期考査			○	○		1
							合計 70

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 生活と福祉

教科： 家庭 科目： 生活と福祉 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 2 組

使用教科書：（生活と福祉）

教科 家庭 の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 【知識及び技能】人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加速・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出し課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 生活と福祉 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	1 現代社会の動向と社会福祉について学ぶ	1. 現代社会の動向 少子高齢化と人口減少社会 社会の変容と暮らし 家族の危機的状況と 地域コミュニティ 子育て中心社会とは 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	2 社会福祉とは	・社会福祉の理念と概念 ・ノーマライゼーションと ソーシャルインクルージョン 社会福祉を学ぶ意義 ・イギリスの社会福祉 ・アメリカの社会福祉 ・日本の社会福祉 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	3 保育の理念と社会的意義	・子供の育ちを取り巻く状況と保育者の役割 ・国内の保育議論から考える保育者の役割 ・指針や要領等から考える保育 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	4 西洋の保育思想と歴史 5 戦前の保育について学び 戦後の保育の変遷を知る。	・ルソーの教育観 ・ペスタロッチの教育観 ・集団保育施設の誕生とオーウェン フレーベルの役割について ・エレンケイの教育観 ・モンテッソーリの教育観 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学期	5 社会福祉法制 6 社会保障制度	・福祉分野の法律 社会福祉法 福祉六法 社会福祉サービスの利用の仕組み ・社会保険 (医療・年金・介護・労働)について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	19
	定期考査 学習成果発表会に向けて	【端末】		○	○		1
							合計 70

高等学校 令和5年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 課題研究
 教 科： 家庭 科 目： 課題研究 単位数： 2 単位
 対象学年組：第 2 学年 3 組
 使用教科書：（ ）
 教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学

科目 課題研究 の目標：

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	①接客サービス ②食べ物の写真 ③テーブルコーディネート ④フランス語を学ぼう 【知識及び技能】 調理師としての資質を深めるための幅広い知識を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 物事を多角的に捉え、料理をよりよく見せる方法を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 体験を通じ、自らの課題を深める知識を身に付ける	・オリエンテーション ・ワークシート	【知識・技能】 調理師としての幅広い知識、技能を身に付けている 【思考・判断・表現】 料理をよりよく見せる方法を体験し、実践できている 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら課題を考え、課題解決に向けてテーマを設けることができる	○	○	○	28
2 学期	グループ別課題研究 個人課題研究 【知識及び技能】 ①調査・研究・実験 ②作品製作 ③調理に関する資格の取得 ④おせち料理プロデュース ⑤コンクールへの挑戦等から2項目以上にまたがる課題を設定できる。 【思考力、判断力、表現力等】 課題解決に向けて、理解を深める 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決するために、自ら学び、調理業界の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む力を身に付ける	個人課題の解決に向けての実施 一人一台端末の活用	【知識・技能】 課題研究の進め方について理解し、自らの課題を設定できる。 【思考力、判断力、表現力等】 設定した課題の解決に向けて、実施計画を立て、わかりやすくまとめることができる。 ①調査・研究・実験 ②作品製作 ③調理に関する資格の取得 ④おせち料理プロデュース ⑤コンクールへの挑戦等から2項目以上にまたがる課題を設定できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題を解決するために、自ら学び、調理業界の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	28
3 学期	研究成果のまとめ、発表 【知識・技能】 パワーポイントの使い方、レポートのまとめ方、わかりやすいプレゼンする方法を学ぶ 【思考・判断・表現】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめる。 【主体的に学習に取り組む態度】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめ、他者の発表をもとに自らの学びの向上につなげる姿勢を養う。	発表準備、パワーポイントの作成 発表(1人10分程度) 一人1台端末の使用	研究成果のまとめ、発表 【知識・技能】 パワーポイントの使い方、レポートのまとめ方、わかりやすいプレゼンする方法を学んでいる。 【思考・判断・表現】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめ、他者の発表をもとに自らの学びの向上につなげている。	○	○	○	14
							合計
							70

高等学校 令和5年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 食品衛生

教 科： 家庭 科 目： 食品衛生 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組

使用教科書：（ ）

教科 家庭

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 食品衛生

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、安全で衛生的な食生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食生活の安全と食品衛生対策について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食品衛生に関する課題を発見し、安全で衛生的な食生活の実現を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	安全で衛生的な食生活の実現を目指して自ら学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 食の安全と衛生 【知識及び技能】 食の安全確保の仕組みを体系的・系統的に理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 食品衛生法や食品安全基本法等の法律について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品衛生と調理師の責務について学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。	・調理師と食の安全の関わり ・食品衛生に関するポスター制作	A 食の安全と衛生 【知識及び技能】 食の安全確保の仕組みを体系的・系統的に理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 食品衛生法や食品安全基本法等の法律について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品衛生と調理師の責務について学び、食品衛生に主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	B 食品と微生物 【知識及び技能】 食品中の微生物（細菌・ウイルス）について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌とウイルスの違いと微生物の増殖条件について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品に影響する微生物について学び、調理従事者として主体的に健康管理をする態度を身に付ける。	・微生物の種類と特徴 ・調理従事者の健康管理	B 食品と微生物 【知識及び技能】 食品中の微生物（細菌・ウイルス）について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌とウイルスの違いと微生物の増殖条件について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品に影響する微生物について学び、調理従事者として主体的に健康管理をする態度を身に付ける。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		2
2 学 期	C 細菌性食中毒 【知識及び技能】 感染型食中毒、毒素型食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 細菌性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・細菌性食中毒の種類と特徴 ・細菌性食中毒の予防	C 細菌性食中毒 【知識及び技能】 感染型食中毒、毒素型食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 細菌性食中毒について学び、主体的にその予防をしようとしている。	○	○	○	6
	D ウイルス性食中毒 【知識及び技能】 ノロウイルスを中心としたウイルス性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ウイルス性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】	・ウイルス性食中毒の種類と特徴 ・ウイルス性食中毒の予防	D ウイルス性食中毒 【知識及び技能】 ノロウイルスを中心としたウイルス性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 ウイルス性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 ウイルス性食中毒について学び、主体的にそのを予防しようとしている。	○	○	○	6

	ウイルス性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。					
	定期考査			○	○	2
3 学 期	E 自然毒食中毒 【知識及び技能】 自然毒食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自然毒食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自然毒食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・自然毒食中毒の種類と特徴 ・自然毒食中毒の予防	E 自然毒食中毒 【知識及び技能】 自然毒食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 自然毒食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 自然毒食中毒について学び、主体的にその予防しようとしている。	○	○	4
	F 化学性食中毒 【知識及び技能】 化学性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 化学性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 化学性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・化学性食中毒の種類と特徴 ・化学性食中毒の予防	F 化学性食中毒 【知識及び技能】 化学性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 化学性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 化学性食中毒について学び、主体的にその予防しようとしている。	○	○	4
	定期考査			○	○	1
						合計
						35

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 総合調理実習

教科： 家庭 科目： 総合調理実習 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 3 組

使用教科書： （ 全国調理師養成施設協会 6 総合調理実習 成分表 ）

教科 家庭 目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 総合調理実習 目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、調理に関して総合的に捉え、食生活関連産業を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】	
大量調理の施設・設備、献立・調理、食事環境とサービスなどについて体系的・系統的に理解するとともに理解するとともに、相互に関連付けられた技術・情報を収集・整理することができる。		食生活関連産業における調理と食事提供に関する課題を発見し、食生活関連産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の深化・総合化を目指して自ら学び、食生活関連産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	集団調理実習 【知識及び技能】 集団調理実習の特徴を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 大量調理の方法を実践する 【学びに向かう力、人間性等】 「食」の安全性の大切さを理解する	教科書、プリント 17人で60人分の職員弁当と生徒用ランチを販売する	【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 集団調理は自分が担当する料理の数は少ないが、失敗や食中毒は全員へ大きな影響を及ぼすことを意識し、「客」に対し安全を意識した丁寧なマナーを身に付けている	○	○	○	36
	定期考査			○	○		1
2 学 期	接客サービス 【知識及び技能】 求められるサービスとは何か理解する 【思考力、判断力、表現力等】 接客サービスの基本を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 食卓の演出にはどのようなものがあるのかを知る	教科書、プリント 17人で60人分の職員弁当と生徒用ランチを販売する	【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 サービスにおける大切な姿勢を理解し、お客様の存在を意識した調理が出来ている	○	○	○	40
	定期考査			○	○		1
3 学 期	クレーム対応 【知識及び技能】 クレームはなぜ発生するか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 クレーム対応の心構えを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 クレームの種類とその対応法方法を理解する	教科書、プリント 真空調理の原理を理論を知り、新たな調理法について理解を深める。 おせち料理のプロデュースについて学び、自分たちでおせち料理のプロデュースを行う	【知識・技能】【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 苦情三変の法則を知り、クレーム対応が出来る	○	○	○	26
	定期考査						1
							合計 105

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 家庭 科目 調理

教科：家庭 科目：調理 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 3組

使用教科書：（全国調理師養成施設協会 5調理実習 レシピ集）

教科 家庭 目標：家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 調理 目標：家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	中国料理（湯） 【知識及び技能】 地域や種類により湯の取り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理で使用する調味料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中華包丁を安全に使用し、中国料理の火の使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式	中国料理 【知識・技能】 四川料理の湯の取り方を理解している 【思考・判断・表現】 中国料理で使う調味料の作り方を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中華包丁を適切に取り扱い、安全に使用することが出来る	○	○	○	9
	西洋料理（ブイヨン） 【知識及び技能】 基本となるブイヨンの取り方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する香辛料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 牛刀を安全に使用し、ペティナイフの使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 フォン・ド・ボライユの取り方を理解している 【思考・判断・表現】 香辛料の種類と名称を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 牛刀とペティナイフを安全に扱える	○	○	○	9
	中国料理（炒） 【知識及び技能】 炒という技法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 火力を調節し、すべてが強火でないことを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 鍋振りの方法を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 中華鍋を正しく扱い、適切に炒めることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 「炒」を行う際、鍋振りができる	○	○	○	9
	西洋料理（肉） 【知識及び技能】 ポワレとソテーの違いを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 肉の火の入れ方を理解し、中心が生にならない焼き方を知る 【学びに向かう力、人間性等】 食材には生で食べられるもの（サラダ）と、食べられないもの（肉）があるのを理解し、衛生観念を深める	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 フライパンを正しく扱い、ポワレとソテーの違いを理解し、豚肉、鶏肉の扱い方と焼き加減を確認し判断することが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 肉を扱うまな板、布巾、包丁を使い分けることが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		4
	中国料理（前菜） 【知識及び技能】 中国料理の前菜の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理の献立構成を理解し、献立の順番を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理の前菜にはどのような種類があるか説明することが出来る 【思考・判断・表現】 中国料理の献立構成を理解し、献立を順番に組み立てることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解している	○	○	○	10
	西洋料理（オードブル） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る 西洋料理のオードブルの位置づけを理解している 【思考・判断・表現】				

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2 学年用） 教科 家庭 科目 調理理論

教 科： 家庭 科 目： 調理理論 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 3 組

使用教科書：（ 全国調理師養成施設協会 5 調理実習 4 調理理論と食文化概論 ）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知 識 及 び 技 能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 調理理論 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	中国料理（湯） 【知識及び技能】 地域や種類により湯の取り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理で使用する調味料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中華包丁を安全に使用し、中国料理の火の使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式	中国料理 【知識・技能】 四川料理の湯の取り方を理解している 【思考・判断・表現】 中国料理で使う調味料の作り方を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中華包丁を適切に取り扱い、安全に使用することが出来る	○	○	○	6
	西洋料理（ブイヨン） 【知識及び技能】 基本となるブイヨンの取り方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する香辛料を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 牛刀を安全に使用し、ペティナイフの使い方を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 フォン・ド・ボライユの取り方を理解している 【思考・判断・表現】 香辛料の種類と名称を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 牛刀とペティナイフを安全に扱える	○	○	○	6
	中国料理（炒） 【知識及び技能】 炒という技法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 火力を調節し、すべてが強火でないことを理解する 【学びに向かう力、人間性等】 鍋振りの方法を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 中華鍋を正しく扱い、適切に炒めることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 「炒」を行う際、鍋振りができる	○	○	○	6
	西洋料理（肉） 【知識及び技能】 ポワレとソテーの違いを理解する 【思考力、判断力、表現力等】 肉の火の入れ方を理解し、中心が生にならない焼き方を知る 【学びに向かう力、人間性等】 食材には生で食べられるもの（サラダ）と、食べられないもの（肉）があるのを理解し、衛生観念を深める	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】【思考・判断・表現】 フライパンを正しく扱い、ポワレとソテーの違いを理解し、豚肉、鶏肉の扱い方と焼き加減を確認し判断することが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 肉を扱うまな板、布巾、包丁を使い分けることが出来る	○	○	○	6
	定期考査			○	○		2
	中国料理（前菜） 【知識及び技能】 中国料理の前菜の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 中国料理の献立構成を理解し、献立の順番を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 中国料理の前菜にはどのような種類があるか説明することが出来る 【思考・判断・表現】 中国料理の献立構成を理解し、献立を順番に組み立てることが出来る 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の種類と調理例を通し、献立構成の種類を理解している	○	○	○	6
	西洋料理（オードブル） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る 西洋料理のオードブルの位置づけを理解している 【思考・判断・表現】				

2 学期	オードブルにはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る		○	○	○	6	
	中国料理（油烹法） 【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット		○	○	○	6
	西洋料理（ポタージュ） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット		○	○	○	6
	定期考査			○	○		2
3 学期	中国料理（蒸烹法） 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法を用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット		○	○	○	6
	西洋料理（ボワゾン） 【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット		○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 福祉 科目 こととからだの理解

教 科： 福祉 科 目： こととからだの理解 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 4 組

使用教科書：（ 実教出版「こととからだの理解」 中央法規「こととからだのしくみ」 ）

教科 福祉 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、介護を実践するために必要な地濃を習得する
- 【思考力、判断力、表現力等】専門的な知識の能力を活用し適切に判断し、専門用語を用いて表現することができる
- 【学びに向かう力、人間性等】福祉の見方や考え方を働かせ、他者と協働して問題解決など学びに向かう積極性を習得する

科目 こととからだの理解 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、介護技術を活用し、個々に応じた介護を安全に実施できる知識を習得できる	専門的知識を習得し、その能力を生かして状況に応じた言語的表現、及び学習活動を積極的に行うことができる	他者との協働活動や演習を通じて他者理解を深め、個々の良さを認め合い、協働して学習活動を積極的に行うことができる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生活動作に関するからだのしくみ 身支度・感染症に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なこととからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこととからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 種々のバイタルサイン測定器具 手洗いチェッカー 視聴覚教材 学習プリント 模型	【知識・技能】 身支度の意味、清潔に関する意味を理解し、清潔援助に関する知識を習得できる 【思考・判断・表現】 身支度に関する観察のポイントや緊急時の対応について判断力を養い、専門用語を用いて表現することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 身支度における多職種連携の意義や学習に対する取り組む姿勢がある	○	○	○	10
	移動に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なこととからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ	移動支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、支援の場面に応じたこととからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 杖・車いす・ストレッチャー・リフトなどの移動機器 演習 視聴覚教材 学習プリント 模型	【知識・技能】 移動の意義について専門的知識を習得し、移動に関する機能低下や障害が及ぼす移動への影響を学び、実践に活用できる 【思考・判断・表現】 習得して知識を基に、移動に関する支援を行う際の留意事項として安全かつ個々に沿った適切な介護支援を判断し実践できる 【主体的に学習に取り組む態度】 移動時の観察のポイント並びに適切な支援を協働して探究し、実践につなげることができる	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
	食事に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なこととからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ	食事支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、食事介助の場面に応じたこととからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 介護用食器類 演習 視聴覚教材 学習プリント 模型	【知識・技能】 食事の意味とからだを作る栄養素について知識を習得し、咀嚼や嚥下、消化吸収などの身体機能を知識として習得できる 【思考・判断・表現】 ライフステージや身体状況に応じた栄養摂取量及び身体活動に応じた個別支援について考察し、専門的表現を用いて判断できる 【主体的に学習に取り組む態度】 食事に関する観察のポイントや、演習を通じた学習活動を積極的に行う姿勢がある	○	○	○	8
	入浴・清潔に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なこととからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ	入浴を行う際に必要となる基礎的な知識として、入浴介助の場面に応じたこととからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 機械浴の校内実習 視聴覚教材 学習プリント 模型	【知識・技能】 入浴・清潔保持の意味について発汗のしくみなど身体の変化を学び、入浴の効果と作用を学ぶことができる 【思考・判断・表現】 入浴・清潔保持に関する機能低下に伴う身体状況について適切に判断し、考察して状況に応じた介護支援を判断できる 【主体的に学習に取り組む態度】 入浴・清潔保持に関する観察のポイントを生かし、積極的に学ぶ姿勢がみられる	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
	排泄に関することとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なこととからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 健康状態と障害・疾病時の身体状況	排泄介助を行う際に必要となる基礎的な知識として、支援の場面に応じたこととからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 健康状態と障害・疾病時の身体状況	【知識・技能】 排泄の意義とメカニズムについて学習したことを基に、正常と異常を、機能低下に伴う身体への影響について習得できる 【思考・判断・表現】 身体状況、及び機能低下に伴う心身の影響を考慮して適切な支援を判断できる				

2 学 期	身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ 定期考査	況を学習する おむつ・ポータブルトイレ・尿瓶等の演習 視聴覚教材 学習プリント 模型	【主体的に学習に取り組む態度】 排泄支援の際に必要な観察のポイントを活用し、適切な支援について演習を通じて協働して学ぶ姿勢がある	○	○	○	11
	睡眠に関するところとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なところとからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ 定期考査	睡眠に関する支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたところとからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 休息と睡眠について関連性を学習する 視聴覚教材 学習プリント 模型	【知識・技能】 睡眠と休息についてからだのしくみを理解し、充足されないときの身体の変化を学び、睡眠と休息の効果と作用を学ぶことができる 【思考・判断・表現】 睡眠と休息に関する機能低下に伴う身体状態について適切に判断し、考察して状況に応じた介護支援を判断できる 【主体的に学習に取り組む態度】 睡眠と休息に関する観察のポイントと支援の在り方を協働学習や演習を生かし、積極的に学ぶ姿勢がみられる	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	終末期・緊急時に関するところとからだのしくみ 【知識及び技能】 生活支援に必要なところとからだのしくみについて理解できる知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 身体メカニズムを基に安全な介護支援について適切に判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学ぶ 定期考査	終末期及び緊急時の支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、場面に応じたところとからだのしくみ及び、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 視聴覚教材 学習プリント 模型	【知識・技能】 終末期における死の捉え方、身体機能の変化について身体の変化を学び、終末期・危篤時・緊急時の介護の在り方を学ぶことができる 【思考・判断・表現】 尊厳死・安楽死・リビングウィル・意思決定支援など個人を尊重し適切に考察して状況に応じた介護支援を判断できる 【主体的に学習に取り組む態度】 介護の役割と医療との連携を含め、身体状況の観察のポイントを生かし、協働的に積極的に学ぶ姿勢がみられる	○	○	○	10
	定期考査			○	○	○	1
				○	○	○	合計
							71

高等学校

令和5年度（2学年用）

教科

福祉

科目

介護過程

教科

福祉

科目

介護過程

単位数

2

単位

対象学年組：第 2 学年 4 組

使用教科書：（ 実教出版：「介護過程」 中央法規：「介護過程」 ）

教科

福祉

の目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】

福祉分野について、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術をみにつけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会生活を目指して学び、発展的、協働的社会に取り組める態度を育む。

科目

介護過程

の目標

利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解する。
利用者の生活課題の解決に向けて、介護職として望ましい考えのもと介護過程を展開できる能力と態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉に関する教科で学んだ知識と技術を統合し個別支援の意義、役割を理解するとともに生活における継続的な支援が行えるよう技術力の向上できる。	個別的な生活支援を展開する上で、生活導線や身体、精神面の変容に気づける観察力を高め専門用語を用いた記録（表現）力を養う。	生活を支援する専門職として、生活上の課題に気づくことができ、計画を修正展開できる解決力を習得できる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 介護過程が目指すもの P8 第1節 根拠に基づいた生活支援 第2節 介護過程の意義 第3節 介護過程の目的・基本視点 【知識及び技能】 生活支援に関する技術は根拠にもとづいて行われていることを理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 個々によって、生活スタイルが異なるため、ニーズに沿った支援に着目する 【学びに向かう力、人間性等】 生活支援を行ううえで、生活動作から求められる支援を考察できる。	指導事項 ・基本的生活を理解できる ・個別ケアの必要性が理解できる 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 根拠に基づいた介護実践には、利用者の視点での解決を目的とした介護過程が必要であることを理解する。 【思考・判断・表現】 介護過程における各展開過程を理解すると共に計画自体の意義について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護過程の目的を日本国憲法の基本的人権、幸福追求権を根拠に理解するとともに、実際に求められる視点について考察する。	○	○	○	4
	介護過程の展開 実教P22 第1章 情報収集とアセスメント 第2章 生活課題と目標設定 【知識及び技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いた収集方法の違いが理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 生活に関する課題を整理するために関連図作りを行い考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 日々の状態を把握するための動作、観察した現状を記録へ繋げる。	指導事項 ・介護過程の意義、目的を理解させる ・意図的な情報収集の取り方 ・情報から生活背景がわかる ・生活課題を捉える 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いて収集方法の違いを習得する。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題を整理するために、色別を用いて関連図作りを行い整理することで、課題が明確化できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の学習時から、様々な書式に合わせた表現・専門用語を用いた文章を書き、構成力を培うことができる。	○	○	○	10
				○	○	○	4
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	介護過程の展開 実教P48 第3章 介護計画の立案 第4章 課題計画の実施と評価 【知識及び技能】 生活全体を把握し、課題を整理するための解釈、統合、計画立案の仕組みがわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 生活に関する課題、直接、間接など課題に優先順位を付けた計画の考察ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げられ考察できる。	指導事項 ・介護過程の意味を理解させる ・利用者の願いと必要性の区分について演習等を用いて具体的に理解させる ・専門職としての情報共有、連携をとる必要性がわかる。 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 生活全体を把握し、課題を整理するため解釈、統合、計画立案の一連の仕組みが理解できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題に命に関連する課題などに優先順位を付けられ計画が立案できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた情報を記録し現状に沿った立案ができる。	○	○	○	12
				○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	介護過程の実践 実教P78 第1章 介護過程の展開の実際 ・再アセスメント ・修正 【知識及び技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報取るため、修得力を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 福祉に関する課題を整理するために、色別を用いて関連図作りを行い整理することで、課題が明確化できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の学習時から、様々な書式に合わせた表現・専門用語を用いた文章を書き、構成力を培うことができる。	指導事項 ・介護計画に基づいた支援の展開が理解できる。 ・日々の支援内容を記録に繋がることをわかる。 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報を取るための修得力が習得できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題目標に優先順位を付けることができ、サービス提供時の様子を専門的視点、思考、過程を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げられ考察できる。				

3 学 期	【思考刀、判断刀、表現刀等】 日々の生活から課題が変わって いくことがわかり、支援時の些細 な変容に気づけ、記録に繋がらる。 【学びに向かう力、人間性等】 情報共有し計画を遂行するた めの関係性を築けるよう、日々の生 活のなかから観察力、洞察力を磨 ける。	教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	計画に沿った支援から得られた、情報を記 録へ繋げ、展開ができ修正に繋がられる。	○	○	○	16
	定期考査			○	○	○	1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	介護実習事前指導	実習の手引き 実習の心得 実習記録の書き方 実習の留意点等 テキスト・教科書・手引き等を用いて指導	福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な実習目標を心得ている 介護実習の留意点を正しく理解し、実践できている 学習に対する積極性がみられる	○	○	○	3
	介護実習事前指導	施設実習（特別養護老人ホーム） 巡回指導を定期的に実施 実習指導者との連絡調整	福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的に行えた 介護及び支援の実践に関連する技術を身に付けた 安全で健全な介護実習を実施し、適切に振り返ることができた	○	○	○	85
2 学 期	介護実習事後指導	施設実習（特別養護老人ホーム） 巡回指導を定期的に実施 実習指導者との連絡調整	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた コミュニケーションを積極的に活用し、利用者理解に努めた 専門用語を活用し、正しく記録できた	○	○	○	85
	介護実習事後指導	実習成果のまとめ 成果発表会に向けての準備	介護実習での学びを生かし、健全な福祉社会に向けた学びがあった 介護実習を通じた学びを適切に振り返り、専門用語を用いてまとめることができた 今後の学習及び介護実習につなげる学びを適切にまとめている	○	○	○	2
3 学 期							
							合計 175

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 介護総合演習

教 科： 福祉 科 目： 介護総合演習 単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組

使用教科書：（ 介護総合演習・介護実習 中央法規 ）

教科 福祉 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力・人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

科目 介護総合演習 の目標： 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力・人間性等】
地域福祉や社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	地域福祉や社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・施設の種類の役割 【知識及び技能】 介護実習が適切かつ総合的に展開できるように、介護実習の意義や目的などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】 介護実習を通して個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【学びに向かう力・人間性等】 地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む	・教科書 ・プリント ・一人一台端末	【知識及び技能】 介護実習施設の概要のみならず、意義や目的、実習生としての心構えなどの説明された内容を理解し、適切に記入する 【思考・判断・表現】 これまで他科目で学んだ知識と技術を統合し、具体的な事例について考察し、より良い生活支援について記入する 【学びに向かう力・人間性等】 具体的な事例をから得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学 期	・事例研究と振り返り 【知識及び技能】 事例研究を通してサービス利用者の心理や生活状態などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】 介護実習や福祉活動などから得た体験についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【学びに向かう力・人間性等】 介護実習や福祉活動などから得た体験について自ら学び、事例研究に主体的かつ協働的に取り組む	・教科書 ・プリント ・一人一台端末	【知識及び技能】 介護実習を通して、利用者の心理や生活状態などについて、理解するとともに記入する 【思考・判断・表現】 介護実習から福祉専門職として必要な援助方法や価値観について考え、プリントに記入する 【学びに向かう力・人間性等】 介護実習の経験から得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・調査、研究、成果報告 【知識及び技能】 調査、研究、成果報告を通して、福祉の各分野について理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】 福祉の各分野について、調査、研究、実験などを通して課題を発見するとともに、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【学びに向かう力・人間性等】 福祉の各分野について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む	・教科書 ・プリント ・一人一台端末	【知識及び技能】 介護実習の経験とそこから身に付けた実践的な知識や技能について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 介護実習から福祉専門職として必要な援助方法や価値観について考え、プリントに記入する 【学びに向かう力・人間性等】 介護実習の経験から得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
				○	○		合計 35

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 福祉 科目 介護福祉基礎

教科: 福祉 科目: 介護福祉基礎 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 4 組

使用教科書: (実教出版: 「介護福祉基礎」 中央法規: 「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」)

教科 福祉 の目標: 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じて、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 介護福祉基礎 の目標: 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援などを行ううえでの基本的な考え方を習得する。
介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会対応について理解する。
準拠学習ノートで学習の理解達成度を確認し、学習したことを活用しながら表現することにより定着する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解をしているとともに、関連する技術を身に付けている。	介護福祉に関する諸課題を発見し、援助者としての合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。	より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	介護従事者の役割と介護福祉士 【知識及び技能】 介護福祉士の役割と介護従事者の役割についてを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護福祉士や介護従業者が介護を受ける側にはどのような役割を果たすのかを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 施設や在宅などの多様な視点で利用者の生活環境を考察する。	指導事項 介護の役割、介護福祉士の専門性 在宅介護従事者の役割 施設介護従事者の役割 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護従業者の役割、専門性について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 介護福祉士の活躍する環境について、科学的な根拠に基づいて各場面での問題に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護福祉士の専門的な視点から利用者の生活環境を整えることについて主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	介護従事者の倫理 【知識及び技能】 介護福祉士として介護従事者の倫理についてを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護福祉士として介護従事者の倫理についてを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 専門職としての基本姿勢を習得し利用者への対応へつながることを考察する。	指導事項 ・専門職の倫理 ・専門職としての基本姿勢 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護従事者の倫理に関する諸課題を発見し、体系的・系統的に理解に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 介護従事者の倫理に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護従事者の倫理に関する諸課題を発見し、生活の向上となることを主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
2 学期	介護実践における連携 【知識及び技術】 介護実践における多職種との連携、利用者とかかわる上での基本姿勢を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護実践における多職種との連携、利用者とかかわる上での介護福祉士役割を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 介護実践における多職種との連携、利用者とかかわる上での基本姿勢を考察する。	指導事項 ・多職種連携とチームケア ・医療・保険・福祉と介護 ・介護支援専門員との連携 ・ボランティアとの連携 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技術】 多職種連携の必要性、介護支援専門員や地域社会での介護福祉士の役割を理解する。 【思考・判断・表現】 多職種連携を行う際に発生する諸問題について解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 多職種連携を行う際に発生する諸問題について考察しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	介護を必要とする人の理解と支援 介護を必要とする人の生活を支える支援 【知識及び技術】 利用者の観察やコミュニケーションから、生活支援技術等についてを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 利用者の観察やコミュニケーションから、生活支援技術等についてを理解する。	指導事項 ・観察 ・コミュニケーション ・介護技術の基礎 ・居住環境の整備 ・移動の支援 ・食事の支援 ・排泄の支援	【知識・技術】 利用者の観察やコミュニケーションから、生活支援技術等について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 様々な生活支援技術についての課題を発見し、観察やコミュニケーションから、生活支援技術等について理解する。				

3 学 期	【思考力、判断力、表現力等】 生活支援技術は、観察やコミュニケーションの重要性を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 観察やコミュニケーション技術使った生活支援技術を考察する。	・徘徊の支援 ・身じたくの支援 ・入浴の支援 ・睡眠・休養の支援 教材 ・ワークシート等 ・一人1台の端末の活用 等	し、観察・コミュニケーションを用いる技術について科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 観察やコミュニケーション技術を利用した生活支援技術について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	介護における安全確保と意義 【知識及び技術】 安全安心な暮らしや、介護現場におけるリスクマネジメントについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護現場で多い事故について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 身体拘束の禁止及び介護現場における防災対策についてを考察する。	指導事項 ・介護におけるリスクマネジメント ・事故予防のための対策 ・現場における防災対策 教材 ・ワークシート等 ・一人1台の端末の活用 等	【知識・技術】 介護従事者として提供できる利用者安全で安心な暮らしを守ることに関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 高齢者の身体的・精神的特徴を踏まえて生じやすい事故について理解し、事例をとおして改善策等を用いて解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 在宅・施設の防災対策について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和5年度（2 学年用） 教科 福祉 科目 社会福祉基礎

教 科： 福祉 科 目： 社会福祉基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 4 組～ 組

使用教科書：（ 社会福祉基礎 実教出版 ）

教科 福祉 の目標：

【知 識 及 び 技 能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考・判断・表現】 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【主体的に学習に取り組む態度】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 社会福祉基礎 の目標：

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	社会福祉・社会保障制度の意義と役割 【知識・技能】 社会福祉・社会保障制度の意義やその役割について理解する。 【思考・判断・表現】 社会福祉を推進する我が国の行政体制に関して理解し、考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会福祉と社会保障制度について理解し、今後の社会福祉の推進について主体的に考察する。 国民生活を支える社会保障制度 【知識・技能】 国民生活を支える社会保障制度の意義やその役割について理解する。 【思考・判断・表現】 各種保険や年金等のあり方について理解し、今後の在り方について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会福祉と社会保障制度について理解し、今後の社会福祉の推進について主体的に考察する。	指導事項 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ・社会保障制度の意義と役割 ・社会福祉と社会保障制度 ・社会福祉を推進する機関 国民生活を支える社会保障制度 ・日本の社会保険制度の枠組み ・健康保険・国民健康保険 ・高齢者医療制度 ・公的年金制度の体系 ・公的年金の給付 ・雇用保険と労災保険 教材 ・ワークシート 等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 社会福祉と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 社会福祉と社会保障制度に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉と社会保障制度の今後の在り方を考察し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	高齢者福祉 【知識・技能】 高齢者福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考・判断・表現】 我が国における高齢者福祉の体制について理解し、考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 今後の高齢者福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。 生活支援のための公的扶助 【知識・技能】 生活支援のための公的扶助について、基本的な知識や制度について理解する。 【思考・判断・表現】 公的扶助の位置づけについて理解し、今後の在り方について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 公的扶助について理解し、その諸課題を主体的に考察する。	指導事項 高齢者福祉 ・介護保険制度 ・在宅サービス ・認知症ケア ・介護保険施設 ・老人福祉施設 ・地域包括ケア 生活支援のための公的扶助 ・生活保護の種類と基準 ・生活保護の実施運営体制と最近の動向 ・ホームレスの自立支援 教材 ・ワークシート 等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 高齢者福祉と公的扶助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 高齢者福祉と公的扶助に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、高齢者福祉と公的扶助の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	子ども家庭福祉 【知識・技能】 子ども家庭福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考・判断・表現】 我が国における子ども家庭福祉の体制について理解し、考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 今後の子ども家庭福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・少子化時代の子ども子育て支援 ・子育て支援と保育 ・障害のある子どもの福祉 ・子どものすこやかな成長への支援 ・市町村と児童相談所の役割 ・社会的養護と児童虐待への対応 ・子どもの貧困と一人親家庭の福祉 ・子どもの権利と子ども家庭福祉 教材 ・ワークシート 等	【知識・技能】 子ども家庭福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子ども家庭福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、子ども家庭福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	16

2 学 期	定期考査	・ワークシート、資料 一人1台端末の活用 等	・グループ活動的に取り組もうとしている。	○	○		1
	障害者福祉 【知識・技能】 障害者福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考・判断・表現】 我が国における障害者福祉の体制について理解し、考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 今後の障害者福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・障害者福祉とは ・身体障害者の現状と課題 ・身体障害者福祉の推進 ・障害者の生活支援 ・知的障害者の現状と課題 ・知的障害者の支援と施設の役割 ・障害者グループホーム ・発達障害を巡る多様な課題と支援 ・精神保健と精神障害者 ・精神障害者の支援 ・障害者福祉の今後 教材 ・ワークシート 等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 障害者福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 障害者福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、障害者福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
3 学 期	人間関係とコミュニケーション 【知識・技能】 コミュニケーションの意義や役割、基礎的な方法について系統的に理解する。 【思考・判断・表現】 援助におけるコミュニケーションの重要性や在り方について考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 コミュニケーション技法を活用し、よりよい信頼関係の形成について主体的に考えようとしている。	指導事項 ・人間としての尊厳 ・自立支援生活 ・新たな社会福祉の構築に向けて 教材 ・ワークシート 等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 コミュニケーションの意義や役割、基礎的な方法について系統的に理解する。 【思考・判断・表現】 援助におけるコミュニケーションの重要性や在り方について考察し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 コミュニケーション技法を活用し、よりよい信頼関係の形成について主体的に考えようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
							合計 70

年間授業計画

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 福祉 科目 生活支援技術

教科：福祉 科目：生活支援技術 単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 4組

使用教科書：（実教出版：生活支援技術・中央法規 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・医療的ケア）

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】福祉分野について、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よい社会の構築を目指して自ら学び、発展的かつ協働的に

科目 生活支援技術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
こころとからだのしくみの知識を踏まえ、利用者の方の特徴に合わせた、根拠ある支援であることを理解でき、技術向上に繋げられる。	技術支援時の手順や一連の動きを専門用語を適宜活用することができ、ポイントなど留意点の色別分別表現でき、思考における表現力をを育むことができる。	生活力を高める努力を行うことで自立した生活から、専門職としての視点が培い、より自分らしく豊かな成長に繋げ、自立に繋がられる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	清潔保持（寝衣交換）の介護 【知識及び技能】 利用者の方に合わせた清潔保持の支援方法を理解判断し実践できる 【思考力、判断力、表現力等】 演習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議及び技術の習得 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解し寝衣交換にける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	20
	医療的ケア・法的根拠・ 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
	清潔保持（入職・手浴・足浴）の介護 【知識及び技能】 利用者の方に合わせた清潔保持の支援方法を理解判断し実践できる 【思考力、判断力、表現力等】 演習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議及び技術の習得 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解しシャワー浴・機械浴・手浴・足浴にける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	20
	医療的ケア・緊急時・感染症 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	清潔保持（洗髪）の介護 【知識及び技能】 利用者の方に合わせた清潔保持の支援方法を理解判断し実践できる 【思考力、判断力、表現力等】 演習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議及び技術の習得 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解しベッド上洗髪にける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	20
	定期考査 医療的ケア 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。	○	○	○	30

	専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える		【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。				
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	医療的ケア 【知識及び技能】医療的ケアに関する知識を理解し習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 学習を通じた気づきや学びを適切な専門用語を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協調し、探究的活動を積極的に行える	・ワークシートを用いた知識の理解 ・パワーポイント、一人一台端末を用いた学習 ・演習を通じたグループ討議 ・グループごとの探究活動と学習内容を発表し合い共有する	【知識・技能】 対象者の身体的特徴を理解し医療的ケアにける留意点及び安全安楽な技術を行っている 【思考・判断・表現】 知識を活用して適切に判断し、演習を通じて気づきや振り返りを専門用語を用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題の提出期限を厳守し、留意点を含めた正しい手順を他者と協働しながら積極的に行える。	○	○	○	20
							合計 140